

開催地名	大分県九重町
開催日時	令和5年9月13日（水） 10：30 ～ 12：00
開催場所	九重町立野上小学校体育館
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	児童、教職員、保護者、地域住民等 148名
開催経緯	数十年に一度の大災害が毎年のように起きている昨今、当町でも、令和2年、令和3年と水害を経験した。 様々な課題はあるものの、防災に対する意識を高める必要性を感じている。本事業の語り部の方から話を聞くことで、自然災害に対する見識を広め、防災意識の向上を図りたい。
内容	（１）はじめに なぜ自然災害が起こるのか。それは地球が生きているからだ。東日本大震災は大人でも立ってられない程の揺れが2分以上続いた。地球と共に生きていくためにも、普段からの備えと準備、そして考えたことを行動することが大切である。 （２）東日本大震災をふまえた防災対策 部屋の整理整頓はできているか。普段から机の下も片付けられているか。片付けられていないと、机の下に隠れることはできない。また椅子やテレビ台などキャスターが付いているものは、動かさない時は随時ブレーキをかける。ブレーキをかけていないと、地震と共に部屋を大きく動き回る。そして本棚などの位置も重要である。万が一本棚が倒れた時に、ベッドに向かって倒れてこないか、寝ている時に地震が起こる可能性があるからだ。出入り口を塞がないか、閉じ込められてしまう可能性もある。 登下校など外出時には、通学路の何気ないものが凶器になる可能性もある。ブロック塀、ガラス、落下物。また東日本大震災の時は道路が割れたところもあった（深いところだと約2メートル）。もし登下校中に地震に遭遇したら、まずは安全な場所に座り、ランドセル本体で背中を守り、カバーを頭に向けてぶら下げて、頭も守る、このスタイルを実践して欲しい。 また寝ている時に地震に遭遇したら、布団にくるまって、ダンゴ虫の状態。そして枕元に防災用品6点セットを用意して欲しい。 ① 靴下 ② 厚底スニーカー：ガラスなどが割れても家の中を歩き回れる。 ③ 携帯ラジオ（イヤホン付けたまま）：停電でテレビなどが利用できなくなっても、情報収集ができる。またイヤホンをつけたままであれば、両手が塞がることもない。 ④ 防犯ブザー：笛はずっと吹き続けなければならないが、ブザーは電池がなくなるまで音は鳴り続ける。 ⑤ ヘッドライト：両手が塞がらない。また懐中電灯だと一人一台はないかもしれない

	し、居間・トイレなど家族内での個々移動にも便利。 ⑥ フード付き雨具：傘は必要なく、合羽が便利。防寒にも対応できる。 そして家で留守番していて地震に遭遇したら、どこに逃げるか。九重町には防災マップがある。お家の人に見せて貰って欲しい。また必ず避難経路など確認し、家族全員で共有することが大切である。 （３）避難所設営体験 東日本大震災の際に小学生も大活躍した。今回１～３年生は避難者、４～６年生で避難所運営（衛生班・受付班・情報班・炊き出し班・設営班・避難誘導班・物資班・総務班）に分かれて、実際に行ってもらおう。４５分と短い時間でできるかは、上級生のリーダーシップにかかっている。 ～模擬避難所設営・運営（約４５分）～ 今回は初期段階の設営・運営だが、実際の避難所開設は三段階に分かれている、①初期：いかに多くの住民を避難させるか②中期（５日間ぐらい）：プライバシーなども考慮し、初期よりスペースを広めにとる③長期：仮設住宅が出来上がるまでの期間。日常生活になるべく近づけられる事が前提。避難者の状況によって、避難所の役割が変わっていくことを知っていて欲しい。 （４）最後に 今回４５分で設営・運営できたのは、皆がいつも助け合い、協力して、命の大切さと人を思いやる気持ちで仲良く暮らしていたからである。そして上級生のリーダーシップの賜物でもある。地球と共に生きていくためにも、普段からの備えと準備をしっかり行い、災害に負けず、勝ち進んで欲しい。
開催地より	災害の備えや防災の基礎知識について、東日本大震災で体験されたことを話していた。 避難所開設の体験や非常食の実演など子どもたちが熱心に参加していた。今後も町の防災力の向上に努めていきたいと思う。